

小野橋をの、はし 「山端やまばたの北にありて巽より乾にわたす橋なり。北の方は花園長谷等にいたるなり、北の橋詰を西に到れば木

行坂つれざかの北に出る、これを小野をの、なほてといふ。ある説にいはく、石蔵いはくらの小野の秋津あきつとよめるは此所なるべしとぞ」

夫木集 時ならで鹿はなかねど石蔵いはくらの小野の秋津あきつと月ぞ見えける 後 九 条

桜井さくらゐ 「松崎まつざきの西北、岩蔵いはくらにいたる坂のまへ、右の道のかたはらに、山の神となづくる杜もりあり、其西に少しき井あり、

これ桜井さくらゐの跡なりといふ」

夫 木 花を見し春の錦の名残とて木葉色づく桜井の里 為 家

木列坂きれつざか 「桜井さくらゐの西北の坂なり、洛陽らくやうより鮮に見ゆる、今世の人狐坂きつねざかといふはあやまりなり。古老のいはく、むかし

此山樹木繁れり、往来の人歩しがたきによつて実は木摺坂きすれといふよし。しかれども石蔵いはくら大雲寺の境界記録古証文には、

木列坂きれつざかを限るとあり」

花園はなぞの 「小野橋をのより北十二三町にあり。むかし左大臣夏野公さだいじんなつのの別荘によるなり、此人百花を愛せらるゝによつて花園はなぞの

左大臣と称す、はじめの地は今の妙心寺の地といふ。後世此地にうつすなり」

万歳山ばんせいざん西来寺せいらいじ

〔花園はなそのにあり。本尊觀世音くわんぜおんは智証大師ちしょうだいしの作、長九尺許。初は黄檗派わうばくはにして今江府靈運院いまかうふれいいうんゐんに属す。近

年五百羅漢らかんを興立す、現住了真和尚げんちゆうれうしんおしやうくわんじん勸進して大方成就せり〕

辨財天社べんざいてんやしろ

〔同所北の山下にあり、例祭は九月九日〕

妙見社めうけんやしろ

〔同所民居の間にあり、地主神とす〕

亀山かめやま

〔木列坂きつれざかを越こて石蔵いはくらに到る、東西に二つの岡あり。いづれも南北へ長し、其形亀に似たり、南に向ひ北に向ふ

の体なり、故に出入の亀と称す〕

大豆塚まめづか

〔御菩薩池みそらがの丑寅うしとらのほとりにあり。毎年節分の夜、年取の大豆諸方より打囃す所、鬼神取つて此所に納むる

といひ伝ふある、社の本縁にあり。往古は塚のうへに小祠ありといひ伝ふ〕

柵塚ますづか〔大豆塚まめづかの西二町ばかり山の下にあり、伝詳ならず〕

大悲山円通寺

〔幡枝村にあり〕禅宗にして、仏殿の本尊は聖観音。〔坐像三尺許、定朝の作なり〕大悲円通の

額は後水尾院の宸翰なり。

潮音堂の本尊は准胝観音。〔坐像の唐作なり〕又西国卅三所の観音を安置す。此地はじめは円光院文英尼公の宅地な

り、則尼公は園左大臣基任公の女なり、寺となす時は妙心寺龍泉の祖実性禅師を開山となす。後水尾院御在位の御時御

祈願所となし給へり、御宸翰御衣等を賜て寺鎮となすなり。同帝行幸の御茶亭あり。三猿堂、霊泉庵は門前の南なる丘

にありて、円光院塔は本堂のひがしにあり。〔延宝八年十一月十一日薨じ給ふ、年七十二歳〕都て此地の庭造小堀遠

州の好にして、東の方より比叡山を庭中へ採、奇景真妙にして、盤陀石といふ名石あり、又白華庵は仏殿の北にあり、

あるは桜花数くありて、春は一入にかほりて寂寥たる花の陰に都下の騷人群つ、来りて、蘇晋が酔中に迹禅を愛する

相ともいふべき。